

3 情報発信

本プログラムでは、6班・8課題から構成される研究プロジェクトの研究成果を世に問うため、印刷刊行物、データベースの形で公刊ないしはインターネット上で発信した。また、ホームページを開設して事業の経過や成果を逐次紹介した。

I 印刷刊行物

本プログラムの調査研究の進捗状況やその成果は、ニューズレター『非文字資料研究』や『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』をはじめとする各種刊行物によって公表している。

年4回刊行のニューズレターは、共同研究の進捗状況のほか、研究エッセイや、調査報告を盛り込んでおり、最終的には19号まで発行された。また、『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』は、1年間の研究成果を公表する媒体として毎年1冊刊行した。論文、研究ノート、調査報告を掲載したもので、全4巻が刊行された。さらに、研究班の調査研究資料として、資料集4冊を随時公刊した。

そのほか、シンポジウム、公開研究会などの記録を報告書の形で刊行している。3回開催した国際シンポジウムの記録は、第1回の『非文字資料とはなにか—人類文化の記憶と記録—』（2006年6月刊行）と、第2回の『図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く』（2007年3月刊行）までが刊行された。加えて、第1回国際シンポジウムのプレシンポジウム（2006年3月刊行）、第1班の公開研究会（2006年6月刊行）、立命館大学のCOEプログラムとの共催で実施したワークショップ（2007年2月刊行）などの記録を報告書にまとめて発行した。

5年目の2007年度には、研究成果報告書として本プログラムの各班・各課題の研究成果をまとめて刊行した。その第一陣が2007年3月に刊行したマルチ言語版『絵巻物による日本常民生活絵引』第2巻である。そのあと、同書を含め、2008年3月までに、同本文編及び語彙編各2冊、『日本近世・近代生活絵引』北海道編、北陸編、東海道編の3冊、『東アジア生活絵引』中国江南編、朝鮮風俗画編2冊、さらに各班の課題の成果報告書『身体技法・感性・民具の資料化と体系化』、『「景観」と「環境」についての覚書』、『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解読』、『地域情報学の構築—新しい知のイノベーションへの道—』、『高度専門職学芸員の養成—大学院における養成プログラムの提言—』、『実験展示「あるく—身体の記憶」をつくる』、『非文字資料研究の理論的諸問題』の8冊、また、論文集として『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』、『非文字資料の可能性—若手研究者研究成果論文集—』の2冊、さらに、調査研究資料として『「澁澤写真」に見る1935—1936年の喜界島』1冊、そのほか研究成果の全体をまとめるものとして『非文字資料研究の展開と成果』1冊の合計19冊を編集、刊行した。

II ホームページ

本プログラムの研究成果については、刊行物で公表するとともに、現在開設中のホームページ (<http://www.himoji.jp>) にも順次掲載して広く公開している。

5年間の事業推進期間中、3度のリニューアルを行い、最新のホームページでは、最終成果である刊

行物19冊、およびデータベース8件を新たに加えるなど全面的な更新を行った。新ホームページの大項目は、「プログラム概要」、「研究班・課題の成果」、「研究者・研究成果」、「データベース」、「刊行物」、「全体研究活動報告」、「事業推進組織」、「若手研究

者の育成」、「海外研究機関との連携」、それに「リンク集」、「サイトマップ」から構成される。

特に、「研究班・課題の成果」を情報発信することに力点を置き、5年間にわたる各班・各課題ごとの共同研究の経過と成果を詳しくまとめている。つまり、第1班「図像資料の体系化と情報発信」の課題1「マルチ言語版『絵巻物による日本常民生活絵引』の編纂」、課題2「『日本近世・近代生活絵引』の編纂」、課題3「『東アジア生活絵引』の編纂」、第2班「身体技法および感性の資料化と体系化」の課題1「身体技法の比較研究」、課題2「用具と人間の動作の関係の分析」、第3班「環境と景観の資料化と体系化」の課題1「景観の時系列的な研究」、課題2「環境認識とその変遷の研究」、課題3「環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解読」、第4班「地域統合情報発信」、第5班「実験展示」、第6班「理論総括研究」という全部で6班・8課題について総括を行った。なお、第5班「実験展示」に関しては、課題として分けてはいないが、「実験展示」と「高度専門職学芸員の養成」の2つのテーマについて、その経過と成果を別々に記述している。

大きな成果をあげて2008年3月31日に終了した本プログラムの研究拠点は、同年4月1日から、本プログラムの拠点の一つである日本常民文化研究所に「非文字資料研究センター」として付置され、継続されることになる。これらの研究成果のホームページによる公開は、引き続きこれまで通り行われる。また、ホームページで公開されない資料については、後継組織の「非文字資料研究センター」に移管され、学術利用に供される。



21世紀COEプログラム ホームページ

Ⅲ データベース

本プログラムにおいては、各班・各課題の研究成果の情報発信を最重要課題の一つと位置づけ、刊行物と共にデータベースによっても発信することとした。事業推進中、データベースは、最終成果の8件を加え、全部で10件のデータベースを作成し、ホームページ上で公開している。対象とするデータにより、発信のスタイルはデータに相応しい形をとる



「海外神社」跡地に関するデータベース

が、大きく分類すると次のようになる。

まず、本プログラムで重点課題と位置づけた研究成果である「生活絵引」、すなわち、描かれた生活の細部に関する情報辞典ともいべき性格をもつものとして、「朝鮮風俗画絵引データベース」、および『『東海道名所図会』絵引データベース』の2件がある。また、福島県只見町の現在版生活絵引ともいべき『神奈川大学COE 只見町インターネット・エコミュージアム』、さらには、日本侵略時代の海

外の過去と現在を対照させつつ、写真調査資料をデータ化した『「海外神社」跡地に関するデータベース』、『租界とアジアデータベース』の2件、関東大震災の写真絵葉書から震災像を捉える試みの『関東大震災・地図と写真のデータベース』、それにオーソドックスで基本的な検索機能を生かした文献書誌データの検索を目的とした『図像文献書誌情報データベース』および『図像研究文献目録データベース』の8件がある。



『東海道名所図会』絵引データベース